

1274

東 京 圖 書 館

七 五 冊	20 七 八 號	一 六 架	二 六 函	小 說 類	和 書 門
-------------	-------------------	-------------	-------------	-------------	-------------

繪本通俗三國志

二編

三





繪本通俗三國志二編卷之三

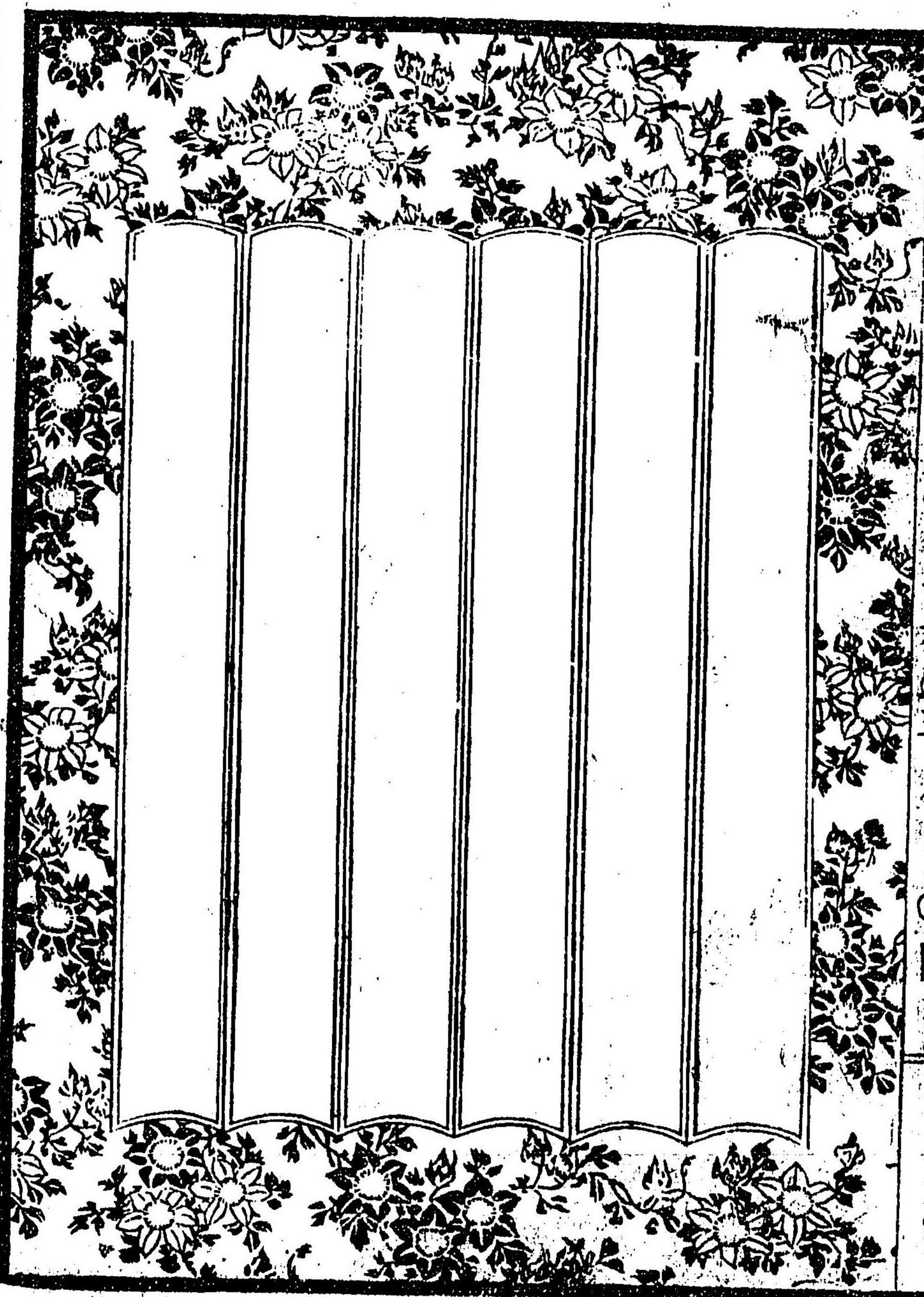
目錄 明治十年交換

袁術七路攻徐及

曹操會兵伐袁術

決勝負賈詡然矣





繪本通俗三國志二編卷之三

袁術七路攻徐州

袁術の淮南の郡縣を横領し、地ひろく糧多し。あまは皆  
 人民を掠め、あびやりしてよふ。富貴を得たるものあり。さき  
 さから孫策が預けられたる帝王傳圖の玉璽あり。まゝ白皇帝の  
 位を即んとし、九重の宮室をほくり、車輦冠冕、亦まゝ、青  
 みそあかりの手にて、大将として、ぐくめりて。昔漢の高  
 祖の泗上の亭の長たりと、きくが四百余年の帝業を創り、  
 今日まで傳へたり。あつても、天啓とて、はなれ、劉氏傳  
 四海島のよふ、神も、家り四代まで。三つ、あつて、百姓の  
 ような、たまふ、守り、あつて、命、順、あつて、



五の位に登らんをわづらひて。你もさうくの臣ぞ。忠孝の節とは  
げほ。朕を輔けよ。政事を行へ。このまゝを主簿。閻象と  
その煉め。やうらう昔。周の后稷より。文王よ。あまふまで。功と  
累ね。徳を積む。いふまゝ。天ト。三分して。その二と。たゆち  
か。殷の紂王。事へ。入り。いふ。君よ。いふ。累代。昌より  
と。せむ。周の盛ん。漢室。衰る。えたり。いふ。是  
い。殷の紂。惡虐。是。事決。いふ。長術  
やうら。我。袁。姓。陳の。國。出。たり。陳。の。大。舜  
の後。土。を。承。その。運。應。せ。我。字。公。路。戲。の  
文。代。漢。當。隆。高。とい。い。ん。や。傳。國。の。玉。玉。あり。帝  
位。即。せん。却。て。天。道。背。ん。我。ん。と。決。せ。ぬ。ん。

煉む。もの。あ。ら。う。首。を。刎。んと。号。と。仲。氏。と。建。臺。省。官  
府。を。は。り。龍。鳳。の。章。駕。と。南。北。の。郊。祭。り。馮。氏。の。女。を。皇  
后。と。後。宮。の。美。人。奴。百。人。衣。服。と。錦。繡。と。器。用。金  
玉。を。み。ぐ。諸。人。賀。と。帝。業。成。就。せ。り。嫡。子。と  
東。宮。に。呂。布。が。女。を。娶。て。好。ま。む。と。使。こ  
は。る。呂。布。久。の。曹。操。と。味。と。媒。人。の。韓。胤。と。市。は  
斬。て。その。外。の。使。を。首。を。刎。たり。大。怒。り。二。十。萬  
の。勢。と。は。子。七。手。の。第一。大。將。軍。張。勳。第二。橋。蕤。第  
三。陳。紀。第四。雷。薄。第五。陳。蘭。第六。韓。暹。第七。楊。奉。を。日  
と。打。立。る。兗。州。の。刺。史。金。尚。を。大。尉。に。任。せ。路  
の。兵。糧。と。奉。行。せ。ん。金。尚。の。思。ひ。な。ん。



備へ先平の勢と七路より多の張勳が二軍のたぢは徐州  
 の大路は蒐り橋糴が二軍の小沛は蒐り陳紀が二軍の沂都は  
 蒐り雷薄が二軍の瑯琊は蒐り陳蘭が二軍の碭石は蒐り韓  
 暹が二軍の下邳は蒐り楊奉が二軍の峻山は蒐り一日は五  
 十里の路を打て民屋を虜掠しその勢あつてをたまたまと  
 厭まるとくありと告ぐまふ呂布はついでと怖きぬる急  
 はつてまふおがて馳入りてとらるる袁術はつら後陣  
 備へ先平の勢と七路より多の張勳が二軍のたぢは徐州  
 の大路は蒐り橋糴が二軍の小沛は蒐り陳紀が二軍の沂都は  
 蒐り雷薄が二軍の瑯琊は蒐り陳蘭が二軍の碭石は蒐り韓  
 暹が二軍の下邳は蒐り楊奉が二軍の峻山は蒐り一日は五  
 十里の路を打て民屋を虜掠しその勢あつてをたまたまと  
 厭まるとくありと告ぐまふ呂布はついでと怖きぬる急

陳珪陳登をやりと相儀とらる陳宮とつらありてやけ  
 る。今日の禍は陳珪父子が為とさる彼二人をとも曹操  
 は内通のふありと言と巧とよ色と令一朝廷よりびと君と  
 賣つて身は富貴とらとめて禍と將軍は移と。今令二人の  
 首と斬と袁術が方へ送りむと大軍あつてつら退とらん呂  
 布がもて你がととと。常は彼父子とあやとむとま  
 搦と下知とれは陳登笑とやと將軍あつてつら  
 ぶまど懦弱とらと某いま袁術が勢と見と朽たの木を  
 くだくがと。呂布はつらあなた敵を退とつら行事あつて  
 も一計事あらが罪を免さん陳珪問て曰く袁術が勢は  
 ねどつらとえいとと手よりつらと。二十余萬あり陳珪はつら







其の國の勢い。いうわどりどり。呂布がいく。五六萬。陳珪  
 陳珪が二十萬。味方の五六萬。すれわどりの對手あり。  
 敵の遠路より。味方の逸とのめて。勞と待四方路と。  
 是より要害より。ふせぐべし。呂布あがらむ。曰く。你首と斬  
 きんが痛さ。偽りて。まづ。と。其の他國へ。逃れた  
 り。わく。陳珪。其の妻子。一族。將軍の掌中。  
 あり。其のまきと。て。何。今。某が。計事。用ひ  
 徐州。安。呂布。曰。陳珪。計事。と。え  
 陳珪。曰。袁術。楊奉。韓暹。の。翼。彼  
 一處。あり。え。鳥。の。あ。た。た。は。は。相  
 親。正兵。を。難。妨。奇。兵。と。生。

此の二の伐。一の勝。又別。某が。計事。あり。  
 徐州。安。袁術。と。楊奉。韓暹。の。勢。わ。か  
 ざ。問。曰。ね。計。事。は。從。陳。珪。や。楊。奉。  
 韓。暹。や。袁。術。は。從。鳳。凰。の。雞。は。從。勢。わ。か  
 かり。久。袁。術。が。人。を。用。む。新。と。積。今  
 此の二人を用ひ。此の二人の元。東漢朝の臣。長安より  
 還御。され。路。次。の。軍。大。功。と。立。た。る。ま。曹  
 操。の。勢。と。輝。り。袁。術。の。身。を。寓。る。の。り。の  
 此の袁術は。楊奉。韓暹。の。輕。し。ひ。書。簡。を。送  
 り。楊。奉。韓。暹。が。も。豫。州。へ。入。る。と。劉  
 徳。曰。袁。術。を。生。捕。と。戰。の。入。り。



布よるあんとてやうらる。你父子の用をばつら行と楊奉ホと招  
た。瑜さんや陳登が白く其をばつら行と呂布とつら書  
簡をばつらつら。まが豫州の劉玄徳は教をばつら陳登を五  
六騎をばつらばけつら楊奉ホと瑜さん。陳登下郎の路をばつら  
韓暹が陣を行つらつら韓暹問と白く你の呂布が大將いま何  
とつらつらつら陳登つらつらつらつら其の漢朝の臣を  
ど呂布が大將つらつら將軍つらつら。天子長安より還幸の付  
忠戦をばつらげんぞ危つらつらつら世をばつらつら功をばつらつら  
身はばつらつらの罪つらつらつら。まのまの有徳清白の大大夫つら  
まは袁術がつらつら逆臣をばつらつらつら明珠をばつらつら  
泥丸を取つらつらつら良玉をばつらつらつらつらつらつらつら

不忠不義の名萬世にいたつらつら。人の仇をばつらつらつらつらつら  
ひつらつら將軍のたつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
名を失つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
將軍を害まつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
漢は敗せんまつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
陳登懐より呂布が書簡をばつらつらつらつらつらつらつらつら  
決つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

布聞二將軍同扶大駕立萬世之功偶因一  
時之間言以致失身于関外若能羊一故且  
新去邪從正同誅黨逆共佐皇朝以圖  
遠大名書符帛專候回音切希照察



韓暹見あつりてやうらむ。其の言をもよものかへの正。韓の先回  
 まるまゝひとつに楊奉志を合せんと袁術と討取べし。  
 合戦の最中は火の手とあつるを我亦合圖とまひぬと去  
 りて陳登のれれと徐州よりえり呂布は右の趣と居る呂  
 布のあつりよるまび兵と五手よる。一手の高順と大将と  
 一沛の路を守らせ。一手の陳宮を大将と一沛都の難死  
 と守らせ。一手の張遼と張翼を兩大将と一沛都を守らせ。一  
 沛都を魏統を兩大将と一魏石と守らせ。一手の呂布と一  
 大将と一沛都の陣を取らせ。張勳と交えんとした。その勢  
 一万余騎あり去らせと七路の守手。ひとくきとんと徐州の

界は近げたり。呂布と一沛都大路へ三十里出張。たるを  
 大将軍張勳あつれ。二十里をくり引たりと呂布の尋常  
 の敵あつら。すく緒方の味方と針事とあつれ。一育の及  
 んと儀と呂布の敵の戦をむと退ぞれたるをよあらし。自ら  
 山の上よのおりと夜中よ敵陣とつる。分儀と火の手とあつて  
 敵の陣中上と下へと騒動と。あつるをよあらしと楊奉韓暹が  
 ねとの合圖とれ。此方よりと合せよと。とつら兵と馳と  
 ふあひと蒐と張勳のあつれ。楊奉韓暹と火とつら  
 後より及られ如何せん。とつらひとあつる。呂布前より討と  
 蒐りたつ。いよ乱と立と馬物の具とを打ちと。とんと  
 えりよとつら。ねとつら。呂布勝よの。殺と

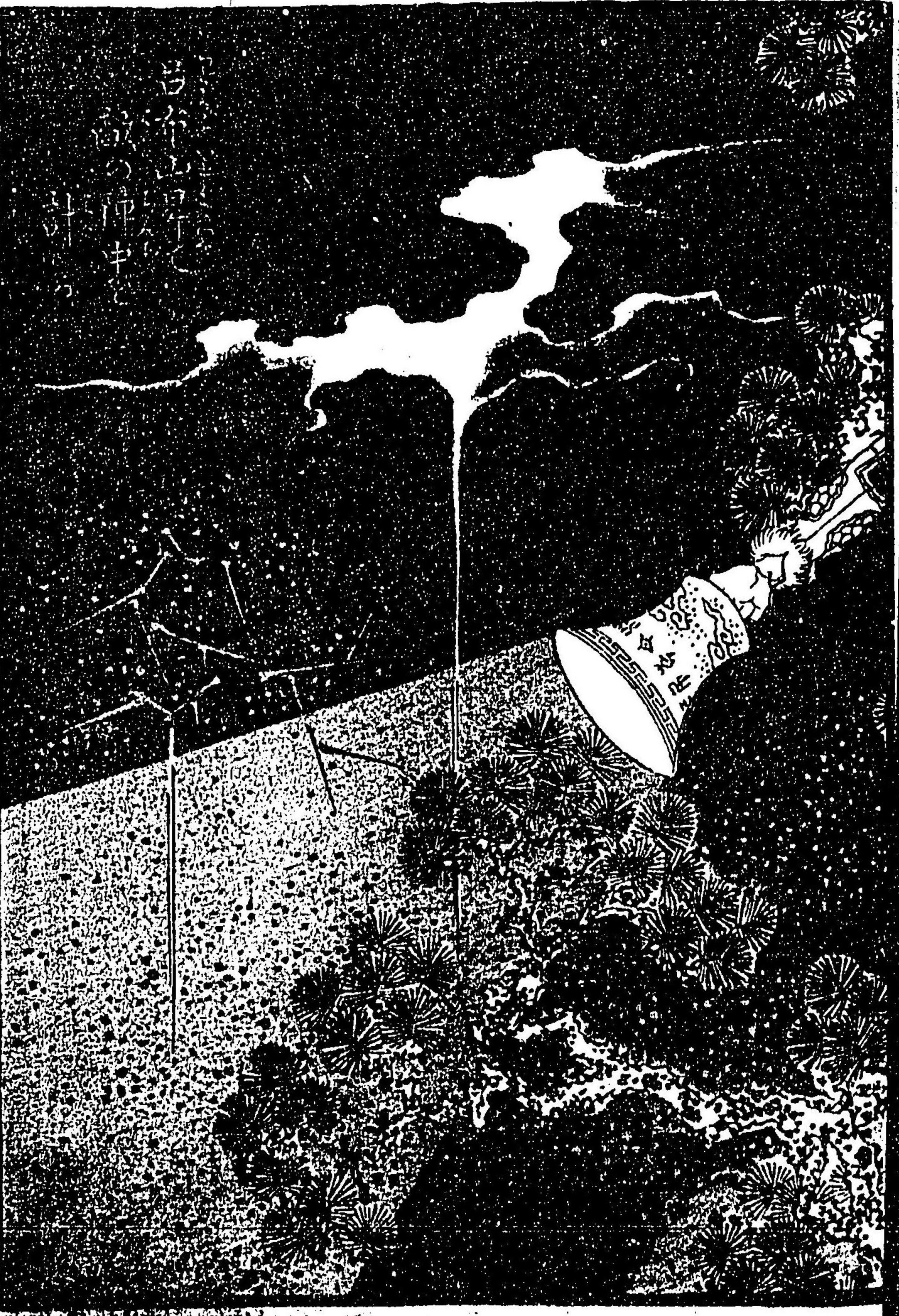








呂布



呂布







へり預けあはるる傳國の王を望むと返さざらまはるる所  
行どるをばはひは打滅せし罪と正して天子に謝せんこと  
とるんぞ力となまざるの理あらんや。多く頸をあらわす刀乃  
臨むを待て書きて使を遣立らるるに「くろし使いぞと淮南より  
て右のあまをむきとるに若し孫策が書簡とて」といふに袁術  
ひらたんと牙を磨りて怒りて「孺子みづより朕と厚く  
むまは吳と打破りて是憤と散せん」といふあはるるに長  
史楊大将とらふものともむく陳さす止せり。

曹操會兵伐袁術

孫策の淮南の使と逐くえ「袁術もろく怒りて及まらば  
兵とぞ入て相待とて兵船とはらぬと用心するは都

より曹操が使きたり天子の詔を傳へて會稽の太守は討  
兵と起して淮南の袁術と伐べりと下知らるるに孫策より  
人ぞ詔を承やと淮南と以んとたさるる長史張昭や  
は袁術ちるる呂布と戦ひまけと回りなきを元來兵つと  
糧多しんがあはるるをせむ。あはるるに「くは冀り國の禍  
たかへぬあはるる曹操とらるる淮南を及ませりて國の勢  
は後よりむむろつと力となまけんといひむる曹操もろく兵と  
衆を淮南よむん。あはるる両方よりは「たまにぞひるる  
袁術もろく破るる」。又の萬一國の災のあるるを救て曹  
操は是とせんたちの計事ありといひるるに孫策かたりるる  
らび書簡とてのへり曹操よ送る曹操の張繡と戦ひ



まはと都より入りてそのひと曲章が討たるをほしと祠  
堂と建て祭とほしその子典満を中郎と任ぶとあるを南  
ひつるは吳の國より孫策が使きたりてその禮物をたす  
りて書簡と増し曹操しとてそのまづ都の勢を起し  
淮南とひるは吳の國の勢の後よりひ蒐らんとする事あり  
これかまゆくおもむくや平へんとてその間者と遣して  
向かひむる袁術ちらぶる兵糧をそへて陳留の辺と  
うさめ却りてとてさうさうとて急は麾下の勢とて  
のそ曹仁を都の留守に兵糧武具と車千輛あまると  
積でその勢都合三十余萬建安二年秋九月は都を打  
立また早馬と打く吳の國は報に徐州と豫州とを使を

馳てとるは兵とそへて豫章より出合んとて遣と先  
陣とて豫章の界より著なまが女徳兵と引て豫州よりま  
かり曹操と對面して首二は出とる曹操あはひて向とる  
首とを問よあててやとてつるは楊奉韓暹二人が首  
あり呂布とのその手と下よもちひと沂都郡郡と守らし  
あるは二人とてその惡とてつるは毎日揚州徐州の辺に  
いど人民と却りて子女を犯と某いある其根藉とんを忍  
ひと酒宴とほめて二人とてそそけ関羽張飛と命とて席上  
まて討殺しむとてつるは手と下の勢と某は降奉せり曹  
操かたのあくよるあひ御辺國のたたる害と除くまをたある功  
ありまると兵をほしと徐州の界よりこれ呂布きたりと對面



曹操言葉をぬぐげり其らと喜がぬ。うき縁と都の  
 へらば左將軍のやとていふと云々れ。呂布恩と謝と相  
 小すあち。諸軍の手配あてりとして。夏侯惇于禁と先手  
 こそ曹操とつら中軍よそあてり。玄徳を右よそあてり。呂布を  
 左よそあてり。袁術ののりて聞て。そののちあてり。疾きまの五  
 萬の兵よそのえ橋柱と先手の大将と。討と出と妨が  
 び両方の軍勢。勿心まら。壽春の界まで出。あひ橋柱産を  
 まくや。馬を蒐まへ。鬪賊さんどろ。國を侵す。馬あり  
 三台方らざる。橋柱と刺さる。勢をひよ乘て。あめひて  
 る。淮南の先陣。五萬余騎。大将と討きて。あてり。味なき。

上脚をまぐ。逃ぐべれ。袁術とつら。後陣よそ入。引かくと制  
 され。ぞも耳を入。まど。落行。勢よい。ざる。あま。壽春城より  
 追と。ま。早馬。追と。ま。たり。く。や。ろ。の。吳の孫策と  
 操と下知と受と。舟手より。の。城の西よ。ひ。呂布徐州の兵  
 と率と。東と。ひ。劉玄徳豫州の勢と。と。南より。と。色  
 曹操の。つ。三十萬騎よ。北を。ひ。る。車と。と。迫まると  
 と。上下。と。色。を。失。る。ひ。と。ま。袁術。手足の。あ。ち。を。知。ば  
 急。と。緒。大将と。相。商。る。楊。大将。や。ろ。今。年。の。壽。春。水  
 早の。患。あ。り。と。五。穀。熟。せ。た。い。ま。又。兵。革。と。受。て。人。民。と。く  
 くら。と。壁。く。寄。手。四。方。より。ま。と。あ。て。妨。ぐ。べ。た。術。は。あ。ら。は。の  
 城。を。守。り。の。勢。と。残。と。出。と。戦。へ。と。あ。ら。と。敵。の。長。の







陣は氣はれ兵糧乏しく。自然變あらん陛下の御  
林獲衛の兵をうけて率と淮水と渡せぬ。公の兵  
糧の費とふた二はる敵の銳氣とさげんたあつと公の  
袁術とくづしと李豊樂就梁剛陳紀四人の大将精  
兵十萬とほけと壽春の城を守らせその身の庫府の金銀  
珍宝を車に乗と相從ぐもの二十萬人連絡くた念と淮  
水とくづしと曹操の手勢二十萬ありたもそ  
毎日はのやと兵糧幾千万といふととらたてつと緒郡  
年の水旱は百姓も飢はれと木の根とわり草の芽と  
まらわばる命とほるぐとらたれが掠ち取つと  
しかる山陣叶ふは「緒軍勢力とさげは」て城の時

よびは路せとやと戦ふんとされが城中きびしく守り  
いとおと兎角とらたつと一月あつとをさつとれが曹操が陣  
中とと兵糧は乏しく馬やうなく飢のど心とらたつと  
吳の國へ使を馳と孫策と米十萬石を借とらちわと  
とらえと。又不日とはれぬ呂布と玄徳をかこのおとらと本國  
より運漕ととらえと路遠とれつと「兵糧の惣官任  
峻と合右奉行王始ときたり」と曹操とやうと味方の勢雲霞  
のさつとらと。いふとされと糧は乏しく相とらと料と  
曹操とらと。とらとを為つと術は「你まだ小斛とをり糧  
とあつととらと。一時の急ととらと王始とらととらと  
もの急とらととらと。曹操とらととらと。一時の術とらと



斛はかりをもちひて糧かきをみり王わう拒こ命めいを領りやうし毎日糧かきを贈おくりふ  
 るものぞむよ小斛せうかくをみり王わう拒こ命めいを領りやうし毎日糧かきを贈おくりふ  
 のやうにして伺うかがひきりしむるは諸軍しよぐんを死しに令しん口くちを  
 する寄よりあひて曹そう丞相しやういふれはかくこれと欺あざむらぬ  
 兵糧へいりやうのむらならんとはおぼるる曹そう操そういふ死し王わう拒こ命めいを領りやうし毎日糧かきを贈おくりふ  
 るの諸軍しよぐんいふるを死しに令しん口くちを  
 する寄よりあひて曹そう丞相しやういふれはかくこれと欺あざむらぬ  
 子こを静しやうめんとおもひて。かゝるを妻子しよしとらふ介けを  
 するを難がたくべさるる王わう問もんいふるを其その借かりなすむと曹そう  
 操そういふく你なんぢが首くびを借かりんとおぼはせし王わう問もんいふるを其その借かり  
 いらるる罪つみをみよ曹そう操そうが曰いはくをよく你なんぢが罪つみを死しに令しん口くちを  
 是こゝに死しせむるをみよ三さん十じゆ萬まん人の心こゝろをよく変いんせん王わう

うは人ひとぞ再またび言いふとさるる曹そう操そう武士ぶしの命めいを一刀いっとうの首くびを斬きせ  
 竿さへよはし「あが榜あがまよと諸軍しよぐんの示し王わう問もんいふるを其その借かりなすむと曹そう  
 と用もちひたり是こゝに死しせむるをみよ三さん十じゆ萬まん人の心こゝろをよく変いんせん王わう  
 させをみよ三さん十じゆ萬まんの勢せいをみよとさるる曹そう操そうの死しに令しん口くちを  
 是こゝに死しせむるをみよ三さん十じゆ萬まん人の心こゝろをよく変いんせん王わう  
 の後のちより兵糧へいりやうを「くわう」なれは曹そう操そう諸人しよじんの法はふを「出い」  
 るもの城しろを三日さんじつの内うちに及およぶと「あひ」るもの城しろを三日さんじつの内うちに及およぶと「あひ」  
 とす。つら馬うまに乗のりて壕わうに「い」たり兵へいを下くだ知しる濠わうを填つみむ  
 焼草やうそうと積つみむ矢や倉くらとやあまをいふと「あひ」るもの城しろを三日さんじつの内うちに及およぶと「あひ」  
 雨あめのふり大木たいぼく大石たいせきを「あひ」るもの城しろを三日さんじつの内うちに及およぶと「あひ」  
 「あひ」るもの城しろを三日さんじつの内うちに及およぶと「あひ」るもの城しろを三日さんじつの内うちに及およぶと「あひ」



の首々勿れが猪軍まゝぬらひ怖る曹操馬よりあつてまを  
 まらひ首々荷る濠を填つて大小の將士は激ますこれ  
 と亟相つてのどくあつて入る猪軍を命を惜まらん切  
 らしめ射るむろりて乗らえくはのちと喚きさけら聲震天地を  
 くばさるまじく城中を力とたたりは防ごもささる道に立  
 入らば夜に入りて寄手は先とあつて城に登るもあ  
 曹操らと賞してあひたたく金銀とあつて入る猪軍ま  
 らの勇をうへはまじく軍威大なるぬらひは一方の門を打  
 ぶり大軍とあつて入る城中の大將李豊陳紀樂就初木  
 剛ホらとあつて生取を市に討つて首を勿らる曹操城中  
 入る軍民と安んじ哀術を建置する宮殿樓閣を宇らひの

焼はくさる壽春とあつて平定しけり又淮水とあつて袁術  
 と追つて議する荀彧陳してゆるる近年飢饉打統る人  
 民安んじかたは又兵乱の患をあつて怨を哭くもあつて  
 ころぐと淮水をとりて急を勝とあつて退ごらん  
 とあつて叶まじく志をくまらる都回りて末春妻の執事を  
 まらる曹操いふせんそつて決むるあつて都より早  
 馬の来と張繡とあつて荆州へ落ると劉表と頼る居たりと南陽  
 の張陵軍勢とあつて従ふとあつて勢をひかへる振らん  
 曹操とのすしと聞付急はとあつて戦ふとあつて毎度利  
 をまらるるとあつて張繡いふとあつて勢をあはらる乗る都  
 以上らんまじく御取あつてとあつて曹操色とあつて



劉表と張繡と方かあせせ及上ら由く大人事なる下  
 吳の孫策を命じて兵を遣はして荆州を以て人まきる体と  
 劉表を以て防人を遣はして外を以て守る事とありて劉表を以て國を  
 出さざるに張繡之軍小勢は破り易らんとし其を以て討  
 亡せしむる禍の根をたえざる吳の國へ使を遣はして孫策を荆州  
 を以て討たむとせしむるに兵を收めて都へ回りて白布と玄  
 徳とを義を以てむきん兄弟の約といふを玄徳を小沛の城に  
 回ししむる私結とせしむる御辺を小沛の城に置はるに  
 とありて兎を待たり只す陳珪陳登と心をあはせしむる白布  
 とありての行事と運とを以てとく相別るはのぶら長安より  
 都へ早馬を以て將軍段熲伍習二人兵を遣はして李傕郭

汜と討殺する一族二百余人を生捕り朝廷にたてまつりて奏  
 する百官を以て殺さんと生捕を市に引出して殺せしむる大敵  
 の張奉を以て殺さんと李傕郭汜が首と路頭を以てたてしむる人民を以て  
 酒と沽と賀とを以て舞うたかあせ家とを以て殺し朝廷に  
 公卿を以て殺さんと浩る朝敵の滅びて古の古例を以て御  
 賀ありて天子の殿中を清くたてまつりて文武の百官を以て  
 太平の酒宴を以て段熲と湯蓋屠將軍と伍習と彭虜將軍  
 とを以て初のおとく長安を守りてたてしむる

決勝員賈翊統兵

時建安三年夏四月曹操淮南より都へ回り朝を出て天子  
 に見へし張繡を討んと兵を以て遣はして打ちまかさんと天子



あんなに御車より送られて城外に送りぬ路次の人民大軍の通  
るべきの打節の交の入りある軍勢の狼藉の怖れ家々を  
て進むる曹操より陣を取るとその辺の村老百姓もたは  
ねた家々もその家のうしろに地頭よりとやら天子の勅  
命を受賊を伐つ民の害とのぞく今交の熟するや兵を出  
すや心より得た者よりあつと通る諸の大將もそくの士卒  
まじり交と交の田地在踏あら人の財物をむき取り  
のあらふ勿心もち首と刃人王法は無親すまきと守れと秋  
毫もあらずのさるれ路くの百姓も地は持して聖徳を  
称しまらぶとわがなりは人を諸軍交のわさりと通る  
より下り平とまの交をたはけ相傳えとてさるる曹操が

乗たる馬いかになり人鳩のさぶら驚ひや駈あがり交の中へ  
もろり入交多あくとたれらまの曹操より兵を雷で行軍  
主薄をやりしを交多と多く害ありとの罪をいせんと出  
るまじ主薄はたえとつら丞相の言今なまら従ふやまの  
ゆかり曹操は白のまじり法を出すと又まじり法をあら  
何とめいへる人を服させると得んぞ。剣を抜き自言せ  
んまじり諸將意は「まじりなれ」郭嘉は「春秋の義  
法不加于貴いま丞相大軍をまじり。自言仕あふまやあ  
る曹操は「春秋の義法を貴き人」かかるとあり。  
まじり是れまじりたり。まじり父母の賜たる髪をまじり  
まじり代人とて。剣を抜き髪をまじりまじり諸軍悚然に





曹操  
諸將  
引て  
路次  
人民と隣ひ



新編 三國志 二巻 卷之三

〇十九







城を目的の下は直下と入るべく及戦ふ。曹操自城の四方と  
 終日伺ひ毎日西の門は大勢とほむけ衆をほと土をほろを梯を  
 つらねくひくは是門より及入るを張繡四方より及られて安  
 きんま死の計は探らうら西の門に手痛く及て三日があひひ息を  
 とほせざるをまきいふせんと儀する。賈翊曰く某より曹操  
 が針車と推したる敵の針車は就てかえつと針車と用を曹  
 操が不意といひ勿まち掩せんと張繡曰ねがくも聞入賈  
 翊曰く某矢倉のくうらんと三日がほひひと曹操はうら  
 馬に乗る城を巡る彼意うらの城の東南の角は屈垣深木  
 のちと半ははらんとて敵のやせんと思ひ急は打破

りて及入らんと計り懸て西の方を急はゆる体とは城中の急  
 ぎあまを妨がんとてとくく知集ると伺ひ入り不意東  
 南の角より入んたを張繡曰あつらひて張繡曰賈翊曰  
 くはまかんのかこたえとあらん是あつらの百姓をあはめて西の門  
 を守らせとれぐ鼓をもち城をほらんと大勢あせと体と成  
 し。屈強の勢をまはらぐく東南の方より鳴をまばせと休め  
 鉄砲をひびくを合圖よとくく針をいばるもあつらと曹  
 操を生捕むといふとらんと張繡くたつらと後まは百姓  
 と西の門はあつらと。賊をほらんと鼓を打せられが案のあつら曹  
 操はうら丘を率へ城をまらふと今夜はあつらと  
 西の門は大勢とと雲の梯を掛押すと天地は山崩らふ



とくよつんせられが城中よもあつたさるんが妨ぐ俸とよは夜  
さきよ二更のさつらよいつてすや時分よつたぞやとす。曹操  
まごりたる兵を駆り。たごりよ東門の角よまがり。糜垣逆も木  
か打破らよぬせらんをさるものよ。さるの西の門をうつよあはま  
り居よさきとさつらよつたさき速やくよまをさる木戸を打破  
りよさきつよ出あつた一人をさる。たご西の門は鼓のさきよ聞  
へるが勿心然とさつと。一聲の鉄砲耳根よひびたさよ是はいつんを  
とさつらよあよ。喊のさき地とさつらよ十方より火を掛はの  
勢雲あつたつらよ。曹操膽魂を身よとさつら馬をうはさ  
かんとさつら。張繡じらよ掩殺。東南の門をよしひらと  
城中の勢よつらよつたつれを曹操軍勢あらけ乱を射

るよのねをさつら。豪の死人よと埋たつら。張繡追射よさつ  
んぞあつら。五更のさつらよあつら。曹操十里あつら退とつれ  
まが城中の勢よつらよつたつらよ引く。敵のさつら馬をの  
具兵糧と射たつら。あつらなつら。ぶ上下よつら喜をさつら  
あつらよ。曹操よつら。道よつら射のさつらさつら。あつらよ。  
痛手をあつら。あつら。一夜の戦よつら。死人五万余人とさつ  
つれが再び戦よつら。力よつら。都をさつら。回らん。城  
中よつら。賈翊よつら。曹操が都よつら。回らよ。伺ひまつら。急に  
州へ書簡よつら。大守劉表よつら。兵をよつら。曹操後よつら。塞  
かつら。劉表よつら。聞つら。争く射いでんとさつら。番の兵よつ  
たつら。吉と呉の孫策兵船をよつら。是處へよつら。来つら。



さきづんの内怖きあざびに用ひきびりしめてあて動む時  
は荆良煉やとりくろん今孫策が兵船とそつては来る  
侍をさるる曹操が下知を受て敵をうたがひむ計あり  
實は及来しつひまじ近きは曹操南陽の戦ふまは  
く力を失ふふそ途のむるあき得がむの射ありそ執ひ  
ふ乗る平らげむんが後多むん大なる害とたきん早く打  
立ち劉表がまを同く黄祖を江のむらうは遣し  
と孫策と押へさせむらう兵を率しと安象といふあま  
出張路とたり塞ひど曹操がのむりそたえんそ張繡  
も劉表が消息をきこむるたび曹操を生取むん何き  
のそれと期せん追はちて前後より討むそとと勢をひ

ふ乗る追蒐る曹操の敗軍と收めて都をさしとのボリくる  
が襄陽といふと清水を通る馬の上と哭いたるは緒  
人との由へを問ふあまそとやん去羊あめと戦ふは  
典章のまをまをさるめと討死せりあまと思てあげんと  
とあまの涙をながれ聞入るる感嘆とあまらく水  
辺に陣を居る牛と宰馬とを祭つて祭とあけ再拜  
し典章が魂をまぬれ言をはあめと哭きききあま大小乃  
将士の涙をながんはだの姪の曹安民を祭りほだの嫡  
子曹昂を祭り又あまの乗たる絶影馬を祭り討死  
せし士卒とあまのあまの緒軍号哭あま休  
とあま都より荀彧早馬を立てる荆州の劉表兵を安象





このそんま  
呉孫策  
兵船と  
連  
荆州へ  
出帆す



御登の路を塞ぎ張繡の力をあてず御用にあらず  
と告ぐ曹操あざむらばくあざむらばく  
は簡のこゝろをたゞしくは敵のきたる  
とある。おとて科事と定めあはしむるは「も怕るよは」安  
象といふが。かゝる敵をたゞしくと書く使を都へは「進  
人ぞ安象の界を著く向せしむるにやれは安象のつとく荆  
州の兵難處とならむ聖ひぞ待らけし。又後より馬はつと  
立ぞ張繡追きたるを告ぐ曹操山を傍り陣を取て交  
中への通ぬ山際の路をまうららせし精兵をく「あは態  
と小勢カよんせとくおえたれば夜あけて劉表張繡が兵のまき  
とんてあまらば敵の勢はさすおとらば小勢カるまは」さらさら

何れも西方よりはるを怕る大軍の落失たたらせしむ  
く手取のせよと。お思ひあるぞう前後より討て菓は俄  
う。たつらある山の内より伏兵突出と縦横無碍は菓たり  
まは劉表張繡が勢をあまひのわらふ討てられと。死するもその  
ねまあらむ。まゝ安象へ逃あはする曹操の困をいぞく險阻  
と前よりは陣を取らる。又都より早馬きたり。河北の  
袁紹まごは都の内空虚なりままひと。大軍をまはして  
急はひのわらんとは荀彧が書簡あまよひと。いぞくは  
曹操のせは披見せらる。この書は曰く

近人自冀及来報說田豐謂袁紹曰  
將軍糧足兵強曹操南征未回宜早來



虚以叢許都奉迎天子号令海内此為  
上策若不乘機破之終被他擒雖悔無  
益也紹聽之持疑未決或請丞相還都  
別作區處劉表張繡亦辭之疾不足夏  
也望早班師勿失大事  
月日

曹操之乃てのわうは驚馬は死にま都の内空虚あるを袁紹  
はのむら下まらたるを解人そ取その取あえ  
は兵を引と紹のむら張繡を聞け急よ追蒐と  
射んとするを賈翊練ゆカカるむむ追つた追  
つた却とるを劉表の曹操都の事ありて敗軍

と引とありて回らるる自是を追ぎんがらつて殺見んとて  
張繡と一すのあり一萬余騎よ追つる曹操はつら  
後陣は居らる追手の蒐るをカカるかして期したるを  
まの軍を引と取とるを劉表張繡を  
射つたを引とるを賈翊はあめ御辺の練をを用ひ  
いま大敗きたりとのりか賈翊は兵を召え今一度  
追む張繡は白とて一戦はまけと敵の勇と味方の弱とい  
とら又追まを得ん賈翊は兵勢の變あり急よ追  
蒐むとるを打勝むる萬勝とて回りぬ某首と  
敵あらん張繡は追つたを打立とる劉表  
の疑とて從つた張繡は兵を召と飛ぶとつと曹操



勢又討ぐ入るる戦ふんとさるるの一人をまぐ馬物の具  
 打さど乱をさるるひびきし張緒氣は乗るはびびと追  
 んまさるる山のほひびきし一手の勢討ぐ出力を震て妨ぐ  
 さまさるるどさるる安衆へ引らまき劉表あまをさるる入るる  
 ろ免賈翊又問ぐやうらふさるるを精兵を引く追蒐を  
 た御辺のまをま止めて追まらるるやぶるるといひ今又敗軍  
 を引く再び追まらるる勝んといふまふくと御辺の言はし  
 さまさるるいふるる何をかくかくのぞく先見のあはらるる賈  
 翊やうらふまを知らせし事あり將軍ま兵を用ひぬる曹  
 操あまよぶと曹操が勢はまよるる敗軍の後まをま追手  
 の蒐らんとさるるらら後陣はとあへく精兵を敗

ままのあまよ追手の勢はんとさるる打負をま曹  
 操あまよ打勝て後再び敵の追んま思ひよくと都事  
 あつてんまよふ屈強なる騎馬の勢はまよままみその  
 身も路まらるる一手の勢は後陣に大將は命と守ら  
 る。大將は戦ふと重く追まらるる敵の不意は出るあつ曹操が  
 大將は戦ふと重く追まらるる敵の不意は出るあつ曹操が  
 いひまらるる劉表も張緒もその高輪は服も劉表は荆州  
 二回り張緒は襄城はたあま曹操は後陣軍あり  
 味方敗まらるる聞まらるる取らるる後陣のま  
 る馳まらるる山際ま推まらるる討まらるる追手を妨げ止  
 る曹操は如何まらるる人ま問ま一人の大將鎗は

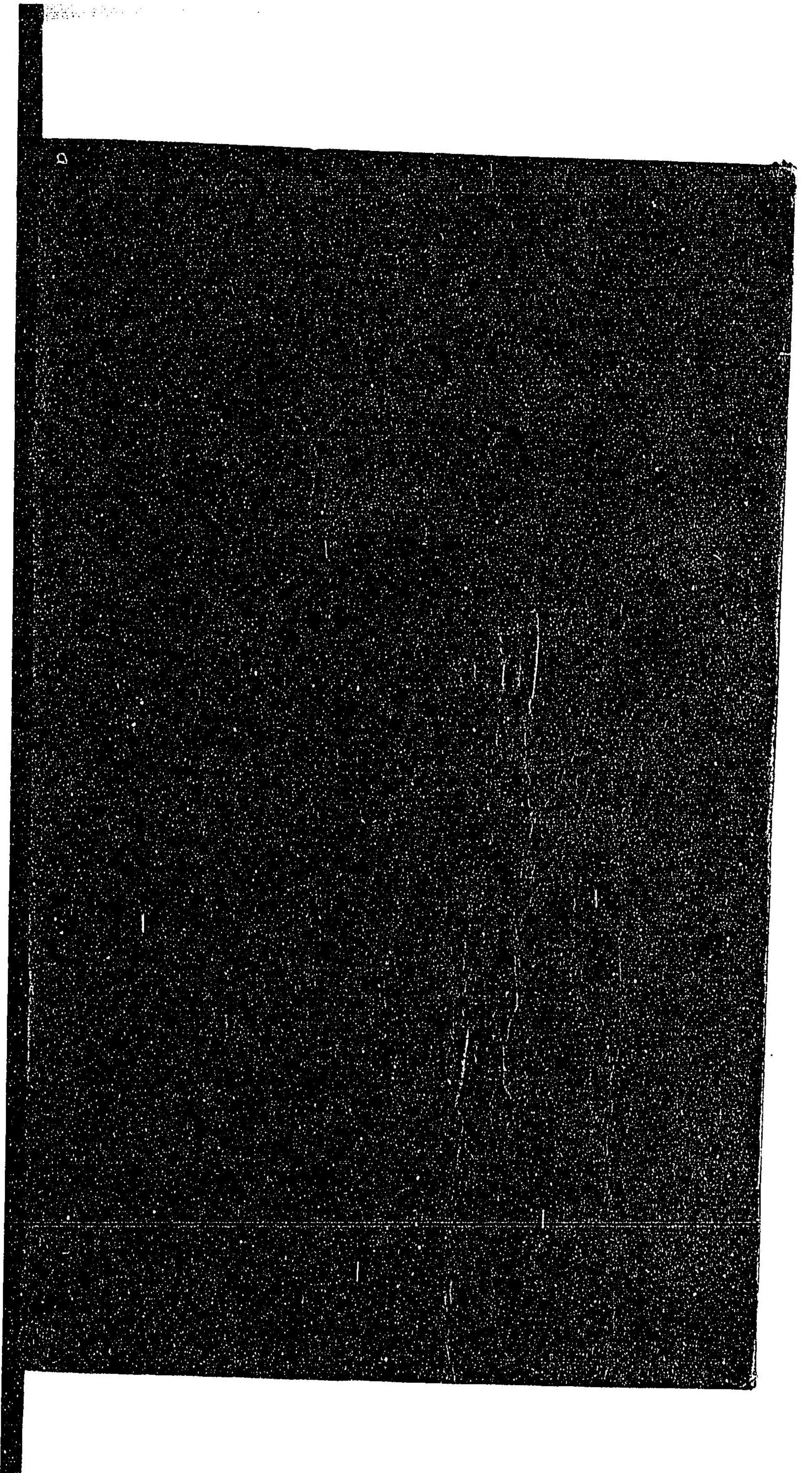




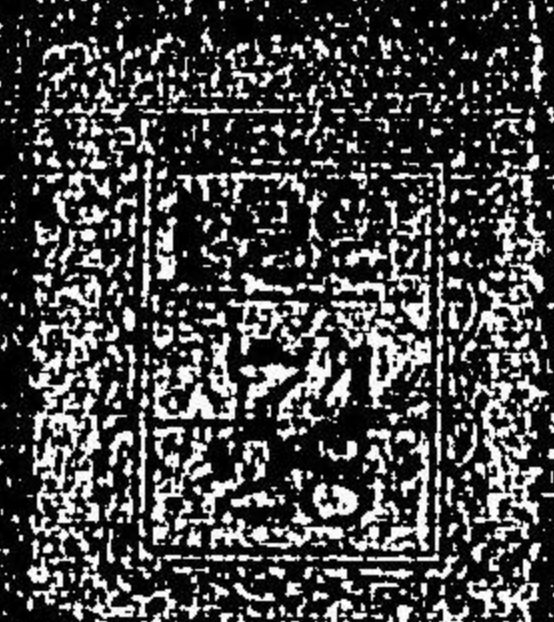


122  
74  
28









繪本通俗三國志

二編

三